投稿

市議会議員選挙はコロナ対策を！

宮古地区医師会情報部
奥平産婦人科医院院長　奥平　忠寛

10月に宮古島市議会議員選挙が行われます。

日本は国民が主権を持つ民主主義国家です。そのなかで選挙は国民が政治に参加し、主権者としてその意思を政治に反映させることのできる最も重要かつ基本的な機会です。ただ今回は各候補者の皆様にお願いしたいことがあります。それは新型コロナウイルスの対策を十分に行って選挙運動をして欲しいということです。

宮古島市では今年1月の宮古島市市長選挙と同時期に新型コロナウイルスの感染が爆発的に広がったという苦い経験があります。あのときは中高年層を中心に感染が広がり、全国から医療者の応援が駆けつけるという大変な事態となりました。

現在宮古島の感染者は少しずつ減少傾向にありますが、「全く気が抜けない」というのが正直なところです。いまは全国が大変な状況なので、今度宮古島で感染が爆発的に広がったとしても以前のように応援が来ることはありません。

なかには「ワクチンが広がっているから大丈夫じゃないのか？」という意見もあるかもしれません。確かに宮古島市は9月はじめにワクチン1回目接種が12歳以上の人口の75%を超えており、これは県内でもトップクラスの成果です。今でも宮古島市役所の職員さんは休日を返上して接種を続けており、その功績は素晴らしいものです。

しかしワクチンの効果が現れるのはあくまでも「2回目の接種から2週間後」です。それまではまた抗体（ウイルスに対する「バリア」のようなもの）の力は弱く、ワクチンを受けていない人と同様に感染をします。また現在感染が拡大している新型コロナウイルス「デルタ株」は非常に感染力が強いため、ワクチンを2回打っていても感染することもあります。ワクチンは非常に有効で、感染から身を守ったり重症化を防いだりすることは分かっていますが、そしてワクチン接種をためらっている妊婦さんや若い女性もおられます。アレルギーや持病が心配で接種をためらっている人、宗教上の理由で接種ができない人もいます。未来を担う若者たちが頑張っているこの状況で、政治家となる皆様が見本を見せなければいけません。どのたくさんの経験を積めばいけないのに我慢を強いられています。本当はワクチンを接種したいのだけど、妊娠の影響を心配されても高齢者施設や病院などで感染が広がると患者様が死亡するケースもみられます。

現在小学校は休校となっています。若者たちも、本来は勉強や出会いなど

候補者の方にとっても新型コロナウイルス対策は重要な政策課題だと思います。このなかで行われる選挙は、徹底した感染対策のもとに行われるべきだと私は考えます。

今回選挙に関わる方々にはぜひ次のことを心がけていただくよう、よろしくお願いいたします。

①支援者、後援者の方も必ずマスクをする。（布マスクやウレタンマスクは効果が低いため、必ず不織布マスクを使用してください）

②事務所でお茶や飲食を避ける。（マスクを外した時に感染が広がります）

③事務所の換気、清掃に気をつける。

④事務所の中でも密にならないよう気をつける。

⑤飲食を伴った集会を行わない。（特にお酒を伴う飲食は控えてください）

⑥可能な限りテレビやSNSなどを使って政策を伝える。

⑦万が一事務所内で感染が発生した時に備え、支援者や面会者の名簿を作り、体温などの健康観察シートをつける。

⑧選挙後の打ち上げを行わない。